株主のみなさまへ

第197期 事業報告書

2019年4月1日から2020年3月31日まで

秩父鉄道
CHICHIBU RAILWAY

ごあいさつ

拝啓、平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第197期の業績および当社グループの取り組みにつきましてご報告申し上げます。

当連結会計年度の事業活動におきましては、当事業年度に当社が創立120周年を迎えたことから、それに因む各種イベントを実施したほか、事業収益の拡大につなげられるよう、積極的な取り組みを行いました。また、沿線の市町、商業施設、同業他社などとも連携した誘客活動も引き続き実施いたしました。

一方、台風などの天候不順の影響を受けたほか、2月以降は新型コロナウイルス感染症の拡大が深刻化し、政府から緊急対応策として自粛要請が出されるなど、鉄道旅客部門をはじめ各事業は大きな打撃を被りました。このような状況の中、当社は感染症拡大防止のため観光・飲食施設の休業やイベントを中止するなどの対応をとる一方、公共交通事業者としての責務を果たすため、お客様や従業員の感染予防の徹底を図りながら鉄道の運行継続に努めました。

こうした厳しい経営環境が重なったものの、貨物部門の増収が寄与し、当連結会計年度の業績につきましては、営業収益は5,449百万円(前期比4.5％増)、営業利益は217百万円(同196.1％増)、経常利益は203百万円(同205.8％増)となりました。しかしながら、税効果会計に伴う繰延税金資産の取り崩しに加え繰延税金負債の計上による税金費用の発生により、法人税等を控除した後の親会社株主に帰属する当期純損失は222百万円(前期は103百万円の利益)となりました。

当期の配当金につきましては、会社法に定める配当可能原資を確保できていないことから、誠に遺憾ながら引き続き無配とさせていただきたいと存じます。株主の皆様には、お詫び申し上げますとともに、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

当社グループは、鉄道事業を柱として事業展開していることから、公共交通機関としての「安全・安心・安定」を維持できる事業者であることが使命であり、輸送の安全、無事故無災害の達成を最優先課題に掲げております。この目的の達成に向け、全役員・従業員が、安全に対し常に意識して業務にあたるとともに、近年頻発・激甚化する自然災害などに対応すべくソフト・ハード両面における取り組みをさらに強化してまいります。

また、利便性やサービスの向上を目指し継続的に利用環境の改善を検討し実施してまいります。

バス事業につきましては、当期において減損処理を行わざるを得ませんでしたが、今後の事業環境を見据えながら経営改善策を策定し実施してまいります。

さらに、沿線地域においては、居住人口の減少や少子高齢化の進行により、労働人口の不足による人材の確保も大きな課題となってきます。このため、生産性の向上にも取り組みながら就業環境の改善を図り、従業員にとって魅力ある会社創りを進めてまいります。

最後に、当社グループを取り巻く経営環境の変化とそれへの対応について申し上げます。

現在、新型コロナウイルス感染症の流行により事業全般に大きな影響を受けておりますが、引き続き感染拡大予防のための適切な対応を図っていくとともに、公共交通事業者として安定運行の継続に最大限の努力を行ってまいります。また、今後感染の収束がみられたとしても社会経済活動のありかたは大きく変わることが予想されます。当社グループは、こうした変化に対応し、事業・サービスのありかたについて再検討を行い、改善してまいります。

一方、ふかや花園駅周辺において深谷市により進められている「花園IC拠点整備プロジェクト」は、昨年事業者との契約が完了し、2022年度開業に向けて工事が進行しております。開業後は、同駅周辺が今後新たな商業・観光拠点となり、交流人口の大幅な増加が期待されます。また、延期とはなったものの「東京2020オリンピック・パラリンピック」の県内開催も控えており、今後ますます埼玉県の各地域が活性化していくことが見込まれます。

このようなことから、経営環境は大きな転換期を迎えていると言えます。当社グループとしては、社会の変化へ対応しつつ既存事業の基盤強化を図ることは勿論のこと、環境変化により生じる事業拡大のチャンスを的確に捉え、さらなる成長につなげることができるよう、積極的な施策を検討し、実施してまいります。

敬具

2020年６月

代表取締役社長　大　谷　隆　男

事業の概況

当社グループは鉄道事業を中核とし、不動産事業、観光事業、バス事業、その他事業を展開しております。
当期におけるセグメント別の事業の概況は次のとおりです。

鉄道事業

鉄道事業におきましては、輸送の安全確保を最優先課題とし、設備面では引き続きコンクリート枕木化、継電連動装置の更新などを計画的に実施したほか、異常時訓練や安全指導などによる従業員の意識向上に取り組み、本年度も運転無事故を継続することができました。また、熊谷駅において内方線付き点字ブロックの設置やホームの嵩上げを行うなどバリアフリー化にも努めました。

旅客部門におきましては、創立120周年、ラグビーワールドカップに合わせた各種イベントの開催や記念乗車券の発売など様々な企画を実施いたしました。また、沿線の市町や商業施設、同業他社と連携したイベントの開催や企画列車の運転など旅客誘致に努めました。

しかしながら、台風などの天候不順や新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、定期外旅客人員及び定期外旅客収入は前期に比べ減少いたしました。また、定期旅客におきましても、沿線就学人口の減少に加え、在宅勤務や休校などの影響もあり、定期旅客人員及び定期旅客収入は前期に比べ減少いたしました。

一方、貨物部門におきましては、輸送量が増加したほか、前年度実施の基本賃率引き上げの効果もあり、貨物収入は前期に比べ増加いたしました。なお、石炭貨物輸送につきましては、本年度をもって終了し、これに伴い今後当該区間（熊谷貨物ターミナル駅～三ヶ尻駅）の廃止手続きを行ってまいります。

営業費用は、経費削減に努めたことや、電力料金単価の値下がりの影響もあり、前期に比べ減少いたしました。

この結果、営業収益は3,491百万円（前期比5.0％増）、営業利益は30百万円(前期は189百万円の営業損失)となりました。

不動産事業

不動産事業におきましては、駐車場収入の減少がありましたが、貸事務所やアパートなどの賃貸事業が順調に推移し、賃貸収入は前期に比べ増加いたしました。また、分譲地販売及び請負工事収入につきましても、前期に比べ増加いたしました。

一方、賃貸物件の修繕工事などにより営業費用は増加いたしました。

この結果、営業収益は383百万円（前期比2.4％増）、営業利益は199百万円（同6.5％減）となりました。

観光事業

観光事業におきましては、旅行業者への営業活動や各施設でのイベント開催など集客活動に注力したほか、長瀞駅前に豚みそ丼専門店「有隣」を開店するなど増収施策を実施いたしました。

しかしながら、長瀞ラインくだりや宝登山ロープウェイをはじめとする各施設において台風など天候不順の影響を大きく受け、減収となりました。

この結果、営業収益は446百万円（前期比8.8％減）、営業損失は28百万円（前期は41百万円の営業利益）となりました。

バス事業

バス事業におきましては、台風及び新型コロナウイルスの感染症拡大の影響を大きく受け、貸切バスの予約キャンセルが多発したことから減収となりました。

営業費用は、人件費をはじめ費用全般の削減に努めました。

この結果、営業収益は383百万円（前期比6.5％減）、営業損失は6百万円（前期は14百万円の営業損失）となりました。

なお、当該事業につきましては、次年度におきましても感染症の影響を大きく受けることが予想されることから、当期において減損損失を計上し固定資産を適正な価額まで引き下げております。

その他事業

その他事業におきましては、建設業では鉄道近接公共工事の受託などが増加となったほか、卸売・小売業では熊谷駅南口のコンビニエンスストアが堅調に推移し、それぞれ増収となりました。

この結果、営業収益は1,178百万円（前期比11.1％増）、営業利益は15百万円（同334.4％増）となりました。

連結財務諸表

連結貸借対照表の要旨

（単位：千円）

科　　目	当連結会計年度末（2019年度）	前連結会計年度末（2018年度）	増減額
（資産の部）			
流動資産	2,305,969	1,616,458	689,510
固定資産	21,133,752	21,662,866	△ 529,114
資産合計	23,439,721	23,279,324	160,396
（負債の部）			
流動負債	3,500,364	3,617,476	△ 117,112
固定負債	9,328,025	8,636,608	691,417
負債合計	12,828,389	12,254,085	574,304
（純資産の部）			
株主資本	563,839	650,629	△ 86,789
資本金	750,000	750,000	―
資本剰余金	21,952	21,952	―
利益剰余金	△ 176,745	△ 90,729	△ 86,015
自己株式	△ 31,366	△ 30,593	△ 773
その他の包括利益累計額	10,035,780	10,362,945	△ 327,165
非支配株主持分	11,711	11,664	46
純資産合計	10,611,331	11,025,239	△ 413,908
負債純資産合計	23,439,721	23,279,324	160,396

＊　記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書の要旨

（単位：千円）

科　　目	当連結会計年度（2019年度）	前連結会計年度（2018年度）	増減額
営業収益	5,449,035	5,216,151	232,884
営業費	5,231,315	5,142,632	88,683
営業利益	217,719	73,519	144,200
営業外収益	37,314	44,133	△ 6,818
営業外費用	51,977	51,243	733
経常利益	203,057	66,408	136,648
特別利益	1,022,630	166,889	855,740
特別損失	1,142,082	161,518	980,564
税金等調整前当期純利益	83,605	71,779	11,825
法人税、住民税及び事業税	44,951	33,366	11,584
法人税等調整額	261,622	△ 65,289	326,911
当期純利益又は当期純損失（△）	△ 222,968	103,702	△ 326,671
非支配株主に帰属する当期純利益	5	80	△ 75
親会社株主に帰属する当期純利益又は当期純損失（△）	△ 222,974	103,621	△ 326,596

＊　記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

セグメント別営業収益構成比

連結株主資本等変動計算書

（単位：千円）

科　　目	当連結会計年度（2019年度）	前連結会計年度（2018年度）
株主資本		
当期首残高	650,629	547,191
当期変動額		
親会社株主に帰属する当期純利益又は当期純損失（△）	△ 222,974	103,621
自己株式の取得	△ 773	△ 435
自己株式の処分	―	251
持分変動による増減額	△ 124	―
土地再評価差額金の取崩額	137,083	―
当期変動額合計	△ 86,789	103,437
当期末残高	563,839	650,629
その他の包括利益累計額		
当期首残高	10,362,945	10,407,348
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△ 327,165	△ 44,402
当期変動額合計	△ 327,165	△ 44,402
当期末残高	10,035,780	10,362,945
非支配株主持分		
当期首残高	11,664	11,591
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	46	72
当期変動額合計	46	72
当期末残高	11,711	11,664
純資産合計		
当期首残高	11,025,239	10,966
当期変動額		
親会社株主に帰属する当期純利益又は当期純損失（△）	△ 222,974	103,621
自己株式の取得	△ 773	△ 435
自己株式の処分	―	251
持分変動による増減額	△ 124	―
土地再評価差額金の取崩額	137,083	―
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△ 327,118	△ 44,329
当期変動額合計	△ 413,908	59,108
当期末残高	10,611,331	11,025,239

＊　記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

個別財務諸表

貸借対照表の要旨

（単位：千円）

科　　目	当会計年度末（2019年度）	前会計年度末（2018年度）	増減額
（資産の部）			
流動資産	1,857,232	1,187,159	670,073
固定資産	20,899,923	21,248,559	△ 348,636
資産合計	22,757,155	22,435,718	321,437
（負債の部）			
流動負債	3,264,877	3,387,763	△ 122,886
固定負債	9,248,091	8,493,432	754,659
負債合計	12,512,968	11,881,196	631,772
（純資産の部）			
株主資本	234,623	299,608	△ 64,985
資本金	750,000	750,000	―
資本剰余金	14,143	14,143	―
利益剰余金	△ 498,152	△ 433,942	△ 64,210
自己株式	△ 31,366	△ 30,593	△ 773
評価・換算差額等	10,009,562	10,254,914	△ 245,352
純資産合計	10,244,186	10,554,522	△ 310,336
負債純資産合計	22,757,155	22,435,718	321,437

＊　記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書の要旨

（単位：千円）

科　　目	当会計年度（2019年度）	前会計年度（2018年度）	増減額
鉄道事業			
営業収益	3,491,346	3,326,156	165,190
営業費	3,460,805	3,514,941	△ 54,136
営業利益又は営業損失（△）	30,541	△ 188,785	219,326
不動産事業			
営業収益	383,989	374,888	9,101
営業費	184,703	161,826	22,877
営業利益	199,285	213,061	△ 13,776
観光事業			
営業収益	307,883	340,695	△ 32,812
営業費	334,369	325,600	8,769
営業利益又は営業損失（△）	△ 26,485	15,095	△ 41,580
全事業営業利益	203,341	39,372	163,969
営業外収益	37,750	50,029	△ 12,279
営業外費用	66,317	69,212	△ 2,895
経常利益	174,773	20,189	154,584
特別利益	1,020,137	156,046	864,091
特別損失	1,018,011	155,946	862,065
税引前当期純利益	176,900	20,289	156,611
法人税、住民税及び事業税	29,485	17,395	12,090
法人税等調整額	283,837	△ 66,450	350,287
当期純利益又は当期純損失（△）	△ 136,422	69,345	△ 205,767

＊　記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

経常利益推移表

（単位：千円）

株主資本等変動計算書

（単位：千円）

科　　目	当会計年度（2019年度）	前会計年度（2018年度）
株主資本		
当期首残高	299,608	230,447
当期変動額		
当期純利益又は当期純損失（△）	△ 136,422	69,345
自己株式の取得	△ 773	△ 435
自己株式の処分	—	251
土地再評価差額金の取崩額	72,211	—
当期変動額合計	△ 64,984	69,161
当期末残高	234,623	299,608
評価・換算差額等		
当期首残高	10,254,914	10,274,663
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△ 245,351	△ 19,748
当期変動額合計	△ 245,351	△ 19,748
当期末残高	10,009,562	10,254,914
純資産合計		
当期首残高	10,554,522	10,505,110
当期変動額		
当期純利益又は当期純損失（△）	△ 136,422	69,345
自己株式の取得	△ 773	△ 435
自己株式の処分	—	251
土地再評価差額金の取崩額	72,211	—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△ 245,351	△ 19,748
当期変動額合計	△ 310,335	49,412
当期末残高	10,244,186	10,554,522

＊　記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

秩父鉄道
CHICHIBU RAILWAY

創立120周年を記念した各種イベントの実施

おかげさまで当社は2019年11月8日をもちまして創立120周年を迎えることができました。

これを記念して新たな会社ロゴマークの制定や記念乗車券、記念酒などの販売を行ったほか、秩父市出身の林家たい平師匠による特別記念寄席、三峰口駅でのサンクスフェスタなどのイベントを実施いたしました。サンクスフェスタではフルラッピングトレイン第三弾「彩色兼備」のお披露目を行いました。

企画列車の運行

ＳＬ列車や電車を利用して、沿線の企業や自治体などと連携した企画列車を運行いたしました。また、今期は、EL(電気機関車)による特別臨時列車の運行も行いました。

記念乗車券&記念入場券の発売

改元を記念した乗車券やラグビー形フリーきっぷ、他社とのコラボ乗車券など、本年も趣向を凝らした様々な乗車券や入場券などを発売いたしました。

フルラッピングトレイン第3弾「彩色兼備（さいしょくけんび）」

創立120周年を記念したラッピングトレインとして2019年11月に運行を開始いたしました。愛称「彩色兼備」は、すぐれた才能と美しい容姿の両方をもっていることを表す「才色兼備」の「才」を「彩」に置き換え、秩父鉄道沿線地域が様々な美しい景色やおいしい食べ物を備えていることを表現しています。

「EL REIWA2」の運行

冬の特別臨時列車として、EL(電気機関車)が客車を牽引する「EL REIWA2(れいわツー)」を運行いたしました。「EL REIWA2」は、令和2年に客車2両、EL(電気機関車)2両による特別編成で運行することから、『REIWA』と『2』を組み合わせた名称です。

ラグビーワールドカップ2019関連事業

2019年9・10月に熊谷ラグビー場で開催されたラグビーワールドカップの試合期間に合わせて、SLラグビー応援号の運行やラグビーボール型フリーきっぷの販売、ラグビー応援グッズのプレゼントなどを実施いたしました。

観光事業

2019年7月11日、長瀞駅前通りに豚みそ丼専門店「有隣」を開店いたしました。秩父産の味噌を独自に調合し、国産豚肉を炭火で焼いた豚みそがご堪能いただけます。

各施設ではシーズンに合わせた様々な企画を実施し、お客様をお迎えいたしました。長瀞ラインくだりでは季節毎のキャンペーンや毎月16日の「トロの日」などの催しをいたしました。宝登山小動物公園では、「うさぎのとろ太くんとエッグハント」や「世界のカブトムシ＆クワガタ展2019」などのイベントを開催いたしました。有隣倶楽部・ガーデンハウス有隣では四季折々のメニューを考案し、多くのお客様にご利用いただきました。宝登山ロープウェイでは、「初日の出鑑賞便」や「雲海観賞便」等の特別運行を行うなど宝登山の新たな魅力を発信いたしました。

証券会社に口座をお持ちでない株主さまへ

株券電子化（平成21年1月5日実施）の際に、証券会社等の口座で当社株式を管理されていなかった株主さまの株式は、当社が日本証券代行株式会社に開設した特別口座で管理されています。

「特別口座」で管理されている株式を譲渡する場合は、特別口座と同一の名義で開設されている証券会社等の一般口座へ振替を行う必要があります。将来の株式譲渡をスムーズに行えるように、あらかじめ特別口座から一般口座に振替えておくことをお勧めします。

特別口座からの振替のご案内

日本証券代行 特別口座
特別口座で管理する株式を譲渡するためには、あらかじめ株主さまご自身名義の証券会社等の一般口座へ振替えておく必要があります。

証券会社 口座開設
証券会社に口座をお持ちでない場合は、株主さまご自身で証券会社に口座開設を行ってください。

口座振替申請書 提出
日本証券代行へ口座振替申請書を請求し、必要事項をご記入、届出印を押印のうえ、口座振替申請書を日本証券代行にご提出ください。

特別口座から 証券会社口座
口座振替は、1週間程度かかります。

証券会社口座
口座振替完了後は、株式のスムーズな譲渡が可能になります。

単元未満株式の買取・買増制度のご案内

【単元未満株式の買取請求・買増請求について】

当社の単元株式数は、100株ですので、100株未満の単元未満株式は市場で売買することができません。

当社では、「買取請求制度」「買増請求制度」を用意しておりますので、ぜひお手続きくださいますようご案内いたします。

買取制度
ご所有の単元未満株式を当社に買取るよう請求できる制度です。
（例）当社株式を80株ご所有の場合、その80株を市場価格で当社に売却し、代金を受領する。

買増制度
ご所有の単元未満株式を1単元（100株）の株式にするために必要な株式を買増すことを当社に請求できる制度です。
（例）当社株式を80株ご所有の場合、20株を市場価格で当社から購入し、100株にする。

特別口座・単元未満株式の処理についてお問合わせ下さい。
日本証券代行　代理人部　（平日9:00～17:00）

0120-707-843

役員・株主メモ

役　員（2020年6月25日現在）

代表取締役社長	大谷隆男
取締役	髙柳功
取締役	武部一弘
取締役	坂本昌己
取締役	中山高明
常勤監査役	根津泰生
監査役	根本裕介
監査役	諸井勝

株主メモ

事業年度	毎年４月１日から翌年３月３１日まで
定時株主総会	６月
基準日	
定時株主総会	毎年３月３１日
期末配当金	毎年３月３１日
中間配当金	毎年９月３０日
株主名簿管理人	日本証券代行株式会社
同事務取扱所	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社　本店
（郵便物送付先 お問い合わせ先）	〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 日本証券代行株式会社　代理人部 0120-707-843（フリーダイヤル） 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国本支店においても行っております。
公告方法	東京都において発行する日本経済新聞
単元株式数	100株
皆様へのお願い	住居表示の変更・ご転居の際は、郵便物が間違いなく届きますよう、お早めに上記株主名簿管理人にお手続きください。
ホームページ	https://www.chichibu-railway.co.jp ※（鉄道ニュースやイベント情報がご覧いただけます。）

株主優待制度

毎年３月３１日の最終の株主名簿に記録された株主さまに対して、その所有株式数に応じて次のとおり優待乗車証・優待割引券を発行いたします。

1．優待乗車証（定期券式）

ご所有の株式数に応じまして、優待乗車証を発行いたします。

ご所有株式数	乗車証の種類	発行枚数
1,500 株以上 2,100 株未満	当社電車全線優待乗車証	1 枚
2,100 株以上	当社電車全線および・索道 （宝登興業株式会社 宝登山ロープウェイ） 全線優待乗車証	1 枚

※有効期間・・・６月１日から１ヵ年間（５月下旬発送）

2．優待乗車証（回数券式）

ご所有の株式数に応じまして、優待乗車証を発行いたします。

ご所有株式数	発行枚数
100 株以上 300 株未満	2 枚
300 株以上 500 株未満	4 枚
500 株以上 1,000 株未満	6 枚
1,000 株以上	10 枚

※有効期間・・・７月１日から１ヵ年間（6月下旬発送）

3．優待割引券

ご所有株式数100株以上で、優待割引券を発行いたします。

施設名	発行枚数
宝登山小動物公園	特別入園券　５枚
長瀞ラインくだり	50％割引券 各５枚
有隣倶楽部お食事代（飲み物は除く）	
ガーデンハウス有隣お食事代 （飲み物は除く）	

※有効期間・・・７月１日から１ヵ年間（６月下旬発送）

秩父鉄道株式会社

〒360-0033　埼玉県熊谷市曙町一丁目1番地

TEL　048-523-3311（代表）

URL　https://www.chichibu-railway.co.jp